自由選択科目，教育実践特別講義

担当教員：隅田学，福田安典，バージン・ルース（国際交流センター），菅谷成子（法文学部），深田昭三，苅田知則，高橋治郎，熊谷隆至，ボグダン・デイビッド・リチャード，池野修，鴛原進，藤田昌子，杉林英彦

フィリピンでの教育実践体験で学生が得たもの（２）

幼児教育講座・深田昭三

授業の背景

平成19年12月に締結された愛媛大学教育学部とフィリピン大学ディリマン校教育学部との間で学術交流協定を背景に，平成 20 年度から２箇年間の研究課題「フィリピン大との連携による国際教育人材育成」が，愛媛大学教育改革推進事業（愛大 GP）に採択された。本授業は，この研究課題の支援を受けて，昨年に引き続き愛媛大学の学生をフィリピン大学ディリマン校に派遣し，フィリピン大学の附属学校等で教育実践体験等を行うものである。本授業を受講し，教育実践体験を行うことで１単位が与えられる。

受講者数

本授業は，フィリピンでの教育実践体験への参加を受講の条件としていたので，最終的に渡航した受講者数は２２名であった。学部構成と，各授業グループは表１のとおりであった。

表１　受講者の学部構成とグループ

学部構成	
教育学部	19 名
教員養成群	15 名
生涯学習群	4 名
教育学研究科	1 名
法文学部	1 名
理学部	1 名
授業グループ	
幼稚園グループ	4 名
小学校　社会科グループ	4 名
図工グループ	3 名
理科グループ	4 名
中学校　家庭科グループ	4 名
理科グループ	3 名

授業の概要

本授業は，大きく分けて次の３つの要素から成り立っていた。具体的な日程は表２のとおりであった。

表２　授業スケジュール

7月1日, 2日	学生向け受講ガイダンス（説明会）
7月21日	第１回全体講義（グループ分け）
11月16日～20日	フィリピン大学附属学校（UPIS）教員来学
11月16日～26日	フィリピン大学ディリマン校アメリア・ファハリド先生来学
11月19日	第２回全体講義（フィリピン大学の先生方による指導）
12月22日	第３回全体講義（渡航ガイダンス）
1月7日	第４回全体講義（直前ガイダンス）
1月8日～15日	フィリピンへの渡航と現地での教育実践体験の実施
2月19日～25日	グレッグ・パウイレン先生，ロリーナ・カリンガサン先生来学
2月23日	平成21年度成果発表会

(1) 日本での授業準備

渡航前の７月末から１月上旬まで，各授業グループに分かれて，担当教員の指導を受けながら授業の指導案作りや, 教材作りを行った。11 月には，フィリピン大学附属学校（UPIS）の教員３名と，同大学教育学部のアメリア・ファハリド先生を愛媛大学に招聘し，第２回全体講義を行った。ファハリド先生には，学生が作成した指導案についても，個別に丁寧な指導していただいた。

(2) フィリピンでの教育実践体験

フィリピンに渡航し，現地で授業実践をすることに加えて，フィリピン大附属学校以外の現地校の見学や，様々な文化体験なども行った。この教育実践体験の詳細については，次節で報告する。

(3) 成果報告会

2 月下旬にフィリピン大のグレッグ・パウイレン先生とロリーナ・カリンガサン先生を愛媛大学に招聘し，附属小学校副校長の正岡義憲先生，附属高等学校の河野極先生を交えて学生グループによる授業実践の成果報告会を行った。学生が授業実践の成果発表を行うとともに，パウイレン先生からは，フィリピン大学附属学校の先生方からの評価結果を報告していただいた。

フィリピンでの教育実践体験

フィリピンでの教育実践体験は，大きく分けて次の３つの要素から成り立っていた。渡航中のスケジュールは表３のとおりである。

(1) 現地校の見学

公立小学校である Libis Elementary School と，私立学校の Don Boscos Technical College を訪問，見学した。

(2) 授業実践

各グループはフィリピン大学附属学校(UPIS)において授業実践を行った。授業実践に先立って授業観察と現地校の授業担当教員との打合せを行った。授業後は授業担当教員と授業を振り返りながら研究協議を行った。

(3) 文化体験

マニラ近郊の Villa Escudero を訪問・見学した。そのほか，ショッピングモールでのショッピング，アメリア・ファハリド氏宅における歓迎パーティ，お別れパーティ等を通しても，異文化体験をすることができた。

学生による成果評価

(1) 体験の印象度と有用性評定

今回の授業の各体験がどの程度印象に残り，有用であったかを尋ねた結果を表５に示した。授業実践と学校訪問は昨年度，今年度の印象度，有用性とも 4.5 以上の評定点であり，これらの体験は強く印象に残り，とても有用だったと認識していたことになる。また，ほぼすべての活動が４点以上の評定点を得ており，参加学生は，どの活動ともかなり有用であり，かなり印象に残ったと考えていることが分かる。

今年度は昨年度に比べて，若干印象度評定が低い傾向にあった。これは昨年度も今年度も参加した学生がいて，印象深さの点では少し低い評定になったのではないかと考えられる。

(2) 授業への興味についての評定

授業への興味と授業で行ってみたいことへの評定を，7 月のガイダンス（説明会），渡航直前，渡航後の３回，同じ項目で評定を求め，その結果を表６に示した。その結果，「海外での異文化体験に興味がある」「海外の学校の授業を見学してみたい」「海外の子どもたちと触れ合いたい」などの項目は，説明会の段階から 4.5 以上の評定値を得ており，学生の興味が高かったことを示している。昨年度と今年度で違いがみられた項目を図１に示した。昨年度は「海外の人と英語で会話してみたい」に興味があったのに対し，今年度は「フィリピンの教育や文化に興味がある」といった，フィリピンという国自体に対する興味が高い傾向にあった。

表３　渡航スケジュール

1 月 8 日（金）	午後 11 時 愛媛大学を出発
1 月 9 日（土）	午前 9:55 関西空港出発 午後 1:35 ニノイ・アキノ空港到着 ・Lancaster Hotel チェックイン ・アメリア・ファハリド氏宅にて歓迎パーティ
1 月 10 日（日）	・Villa Escudero 訪問
1 月 11 日（月）	・Libis Elementary School 訪問 ・Don Boscos Technical College 訪問 ・モール・オブ・エイジアにおいて夕食・ショッピング ・UP NISMED HOSTEL チェックイン
1 月 12 日（火）	・UPIS にて授業見学 ・授業担当教員との打ち合わせ・授業準備
1 月 13 日（水）	・UPIS にて授業実践 ・授業後の省察 ・University Hotel にてお別れパーティ
1 月 14 日（木）	午後 2:20 ニノイ・アキノ空港出発 午後 7:05 関西空港到着
1 月 15 日（金）	午前 1 時ごろ 愛媛大学到着

注：UP は University of the Philippines Diliman，UPIS は，UP Integrated Schools を示す。

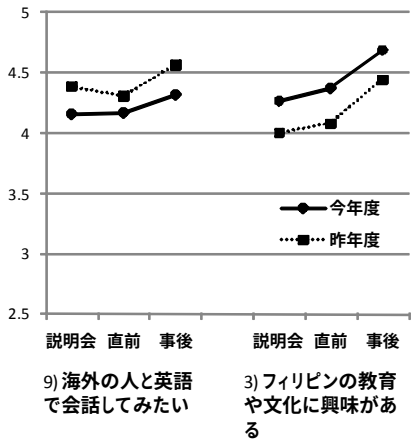

図１　授業への興味の年度間比較

(3) 自己の能力評定の変化

自分が身につけたさまざまな能力についての評定も，説明会，渡航直前，渡航後の３回評定を求め，その結果を表７に示した。

とりわけ特徴的であった項目を，図２と図３に示した。図２に示した「英語で説明をしたり会話をしたりすることができる」「日本を世界的な視野に位置づけて考えることができる」「世界のさまざまな人々と交流することができる」は，どちらかといえば渡航を契機にして高まる傾向を見せた。

一方，図３に示した「フィリピンの子どもたちにふさわしい教材を作ることができる」「フィリピンの子どもたちによく分かるように説明することができる」「フィリピンの文化や習慣を説明することができる」の項目は，事前の授業準備の段階から評定が高まり，渡航でさらに伸びる傾向を見せた。今年度は，これらの項目で昨年度以上の伸びが見られた。これは，今年度はグループ分けを夏休み以前に終えて，十分に授業準備ができる時間的余裕を持たせたことや，事前にフィリピン大学の附属学校の先生を招聘して，現地の学校の様子を伝えてもらったことから，このような伸びがみられたのではないだろうか。

(4) 自由記述による自己評価

フィリピンでの教育実践体験を通してどのような点で成長できたと思うかについて自由記述で回答を求めた結果の一部を表４に示した。英語を話すことへの積極性，国際的な視野の広がり，自国の文化を知ることの大切さ，協力して授業を作り上げることの重要さなどを述べる学生が多かった。とりわけ，２回目の参加者の記述においては，入門的体験からより深まった体験を行っている様子がうかがえた。

表４　教育実践体験を通した成長

（英語を話すことへの積極性）

私は英語には興味がありましたが，今まで積極的に外国と関わるようなことはしていなかったため，はじめは英語での授業に抵抗を感じていました。しかし，今回いざ行ってみて，英語で会話することへの抵抗がなくなり，苦手ではありますが積極的に話しかけることができるようになりました。また，帰国後も英語を勉強しようとする意識を持たせてくれました。この気持ちの変化は，やはり英語での会話にとても悔しい思いをしたからでしょう。この経験は，私のこれからについて大変考えさせられるものであり，継続的に外国語を勉強することの大切さを感じさせられるとても貴重なものでした。

（国際的な視野の広がり）

この事業を通して，日本以外の国際社会で役立てることのできる教育観を養うことができた。これはフィリピン大学附属小学校で授業をしただけではなく，異文化に触れることができたからこそ成長したのだと考える。アメリア先生の自宅での歓迎パーティ，ヴィラ・エスクデーロでの文化交流，公立・私立の学校見学など，この事業で行ったすべてのことが，今の私の成長につながったのだと思う。異文化と交流し，多様性を理解して初めて国際社会で貢献できる人材へと成長していくと思う。私自身，視野・考え方の幅を広げることができた。本当に有意義な事業であったと思う。

（自国の文化を知ることの大切さ）

授業計画を立てるにあたり，日本の文化について学ぶきっかけにもなりました。異文化を理解するためには，まず自国の文化についてよく知らなければならないと思います。そして，国際的な視点で考えることができるようになったことが，成長した点だと思います。日本のこともフィリピンのことも，もっと知りたいという気持ちが大切なのではないかと思います。

（２回目の参加者の感想）

私は２回フィリピンで授業実践を行い，昨年よりも自信を持って授業を行うことができました。私はフィリピン渡航を経験し，子どもに伝わりやすい発問の仕方がとても大切であることに気づきました。また，チームで一つの授業を作るので，多くの人の意見を参考にし授業を作る大切さを学びました。この経験をもとに授業を作るときは，様々な視点から授業を作り，複数の人から意見をもらい，授業を作っていきたいです。

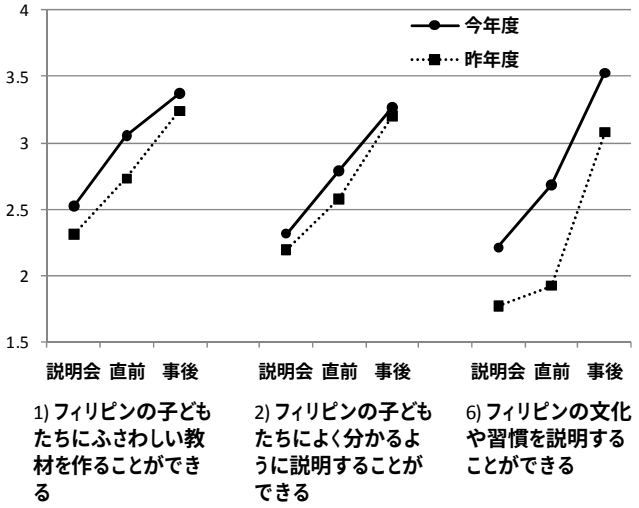

図２　能力評定の伸び（１）

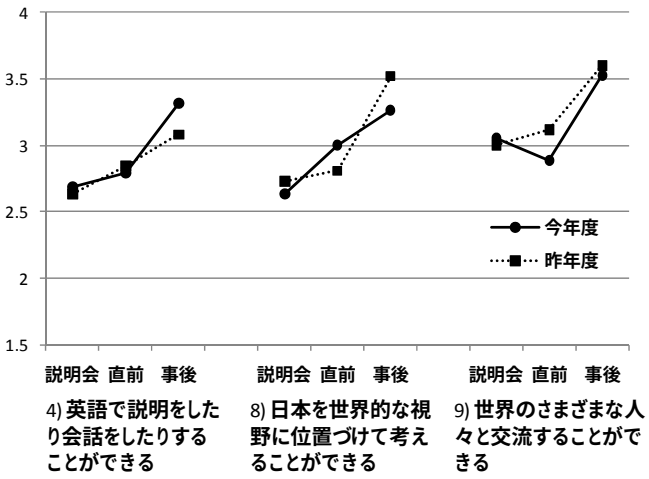

図３　能力評定の伸び（２）

表５　各体験の印象度と有用度評定

	今年度		昨年度	
	印象度	有用性	印象度	有用性
1) 日本での指導案の作成･授業準備	4.42	**4.68**	4.32	**4.60**
2) 日本でのファハリド先生の指導	4.11	**4.53**	4.12	4.40
3) 歓迎パーティ	**4.68**	4.37	**4.64**	**4.60**
4) 文化体験（ヴィラ･エスクデーロ）	4.47	4.37	**4.68**	4.44
5) 公立, 私立学校訪問	**4.74**	**4.63**	**4.91**	**4.96**
7) 実践実施校での打ち合わせ	4.26	4.44	4.29	**4.63**
8) 授業実践	**4.95**	**4.89**	**4.96**	**4.96**
9) お別れパーティ	4.11	4.11	**4.68**	**4.64**
10) 報告会でのプレゼンテーション	3.68	4.11	4.16	4.32

注：「全く印象に残らかなった」(1)から「強く印象に残った」(5), または「全く有用ではなかった」(1)から「とても有用だった」(5)の５段階評定。4.5 以上の評定値のものに下線を付した。

表６　授業への興味と授業で行ってみたいことへの評定

	今年度			昨年度		
	説明会	直前	事後	説明会	直前	事後
1) この新しい授業科目に興味がある	4.47	4.22	**4.74**	**4.50**	4.31	**4.72**
2) 海外での異文化体験に興味がある	**4.63**	**4.79**	**4.89**	4.46	**4.54**	**4.80**
3) フィリピンの教育や文化に興味がある	4.26	4.37	**4.68**	4.00	4.08	4.44
4) 英語での教材作成に挑戦してみたい	4.21	3.89	4.32	3.63	3.92	4.12
5) 海外での教育実践体験を行ってみたい	4.47	4.28	**4.58**	4.31	4.16	**4.56**
6) 海外の学校の授業を見学してみたい	**4.74**	**4.79**	**4.68**	4.38	**4.69**	**4.72**
7) 海外の子どもたちと触れ合いたい	**4.74**	**4.58**	**4.79**	**4.69**	**4.73**	**4.84**
8) 海外の大学生と知り合いたい	4.32	4.11	4.32	4.46	4.31	**4.56**
9) 海外の人と英語で会話してみたい	4.16	4.17	4.32	4.38	4.31	**4.56**
10) 海外の大学の先生に教わってみたい	4.47	4.00	3.95	4.19	4.23	4.48

注：「全くそう思わない」(1)から「強くそう思う」(5)の５段階評定。4.5 以上の評定値のものに下線を付した。

表７　自己の能力評定

	今年度			昨年度		
	説明会	直前	事後	説明会	直前	事後
1) フィリピンの子どもたちにふさわしい教材を作ることができる	2.53	**3.06**	**3.37**	2.31	2.73	**3.24**
2) フィリピンの子どもたちによく分かるように説明することができる	2.32	2.79	**3.26**	2.19	2.58	**3.20**
3) 英語で自己紹介をすることができる	**3.42**	**3.58**	**4.00**	**3.46**	**3.42**	**3.88**
4) 英語で説明をしたり会話をしたりすることができる	2.68	2.79	**3.32**	2.63	2.85	**3.08**
5) 英語で電子メールや手紙を書くことができる	2.94	**3.00**	**3.47**	2.92	2.88	**3.36**
6) フィリピンの文化や習慣を説明することができる	2.21	2.68	**3.53**	1.77	1.92	**3.08**
7) 日本の文化や習慣をフィリピンの子どもたちに紹介できる	**3.00**	**3.22**	**3.47**	2.94	**3.15**	**3.64**
8) 日本を世界的な視野に位置づけて考えることができる	2.63	**3.00**	**3.26**	2.73	2.81	**3.52**
9) 世界のさまざまな人々と交流することができる	**3.06**	2.89	**3.53**	**3.00**	**3.12**	**3.60**
10) 世界のさまざまな国で, 自分を役立てることができる	2.33	2.50	2.95	2.48	2.54	**3.12**

注：「全くできない」(1)から「十分にできる」(5)の５段階評定。3.0 以上の評定値のものに下線を付した。